

御即位記念特別展

正倉院 の世界

皇室がまもり伝えた美

Special Exhibition
Celebrating the Enthronement
of His Majesty the Emperor

Shosoin: Essential Treasures of Ancient Japan
Passed Down by the Imperial Family

Press Release

今、受け継がれる悠久の美。

天皇陛下の御即位を記念し、正倉院宝物を中心とした飛鳥・奈良時代の国際色豊かな造形文化に焦点を当てた特別展を開催します。

この展覧会では、皇室が守り伝えてきた正倉院宝物と法隆寺献納宝物を同時に公開します。両宝物は古代の東西交流の有り様を伝える、世界的にも貴重な文化遺産です。

正倉院宝物は、光明皇后が聖武天皇の御遺愛品をはじめとした品々を東大寺大仏に捧げられたことに由来し、およそ1260年にわたり守り継がれてきた世界的にも比類のない文化財です。わが国で製作された美術工芸品や文書類などのほか、「正倉院はシルクロードの終着点」と呼ばれるように、遠く大陸から持ち込まれた国際色豊かな品々が伝わります。それらは、奈良時代（8世紀）の日本の文化や技術の精華を示すとともに、文化と人々の東西交流を確かに示す証でもあります。

また、現在は東京国立博物館が所管する法隆寺献納宝物も、飛鳥・奈良時代（7～8世紀）を代表するものです。明治11年（1878）に法隆寺から皇室に献納され、昭和22年（1947）に国へ移管された宝物300件を指し、正倉院宝物と双璧をなす文化財です。両宝物とともに展示することで、正倉院宝物をとりまく造形文化の世界をより広い視野から紹介します。

本展はこれように正倉院宝物と法隆寺献納宝物という日本を代表する文化財が一堂に会する稀有な機会です。また、令和元年の本年にこそふさわしい、日本文化を世界に発信する展覧会です。皇室が守り伝えたかけがえのない日本の美、今後も受け継がれゆく悠久の美をご覧ください。



みどころ ①

皇室が守り伝えた
正倉院宝物と法隆寺献納宝物の
代表作を一挙公開！

天皇陛下御即位という御慶事^{ごけいじ}を記念し、皇室が守り伝えた正倉院
宝物と法隆寺献納宝物の代表作を中心とした作品約110件から、
正倉院宝物の世界を多角的に紹介します。

みどころ ②

法隆寺献納宝物、
正倉院宝物、夢の共演

わが国の7世紀美術を代表する法隆寺献納宝物と、8世紀美術
を代表する正倉院宝物を同時公開します。漆胡瓶（正倉院宝物）と
竜首水瓶（法隆寺献納宝物）など同じ用途のために製作された作品
を並べて展示することで、時代や素材の異なるそれぞれの造形美の
特色を間近にご覧いただきます。

みどころ ③

約9000点の宝物を
1260年以上にわたり伝えた
「正倉院」を知り、
そのスケールを体感する

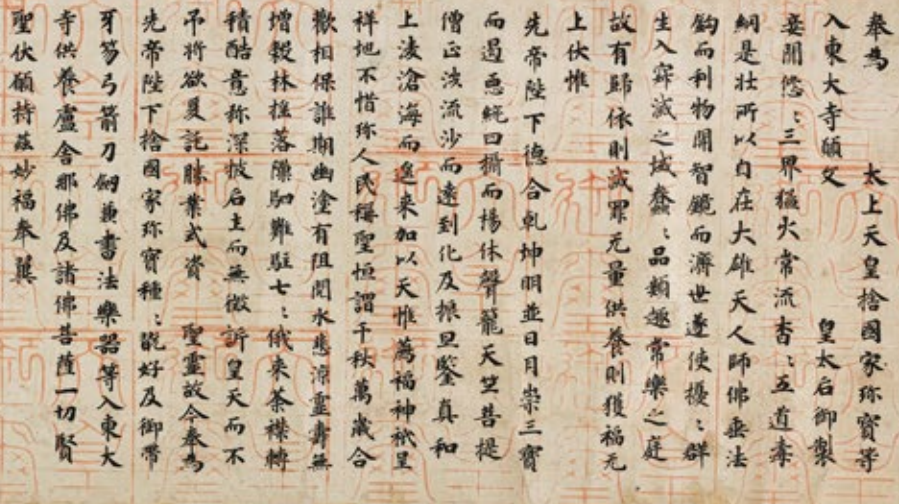
1260年以上にわたり約9000点の宝物を守り伝えてきた
正倉院宝庫。貴重な文化財を更なる未来に伝えるため、今なお行わ
れる保存・修理・模造の取り組みにも注目します。

また、会場内には一部原寸大で宝庫を再現し、雄大なスケールを
体感いただくスペースも登場します。



聖武天皇と光明皇后 ゆかりの宝物

天平勝宝8歳(756)6月21日。聖武天皇が崩御されて四十九日にあたるこの日、光明皇后は天皇が早く盧遮那仏の世界「花蔵の宝刹」に安住されることを願って、東大寺の大仏(盧遮那仏)に天皇御遺愛の品々をはじめとする、六百数十点の宝物を献納されました。この章ではその際の目録である『国家珍宝帳』に記された宝物を中心として、聖武天皇と光明皇后ゆかりの品々をご紹介します。「国家の珍らしき宝」と称された、8世紀の我が国を代表する至宝の数々をご覧ください。



聖武天皇と光明皇后の思い出の数々

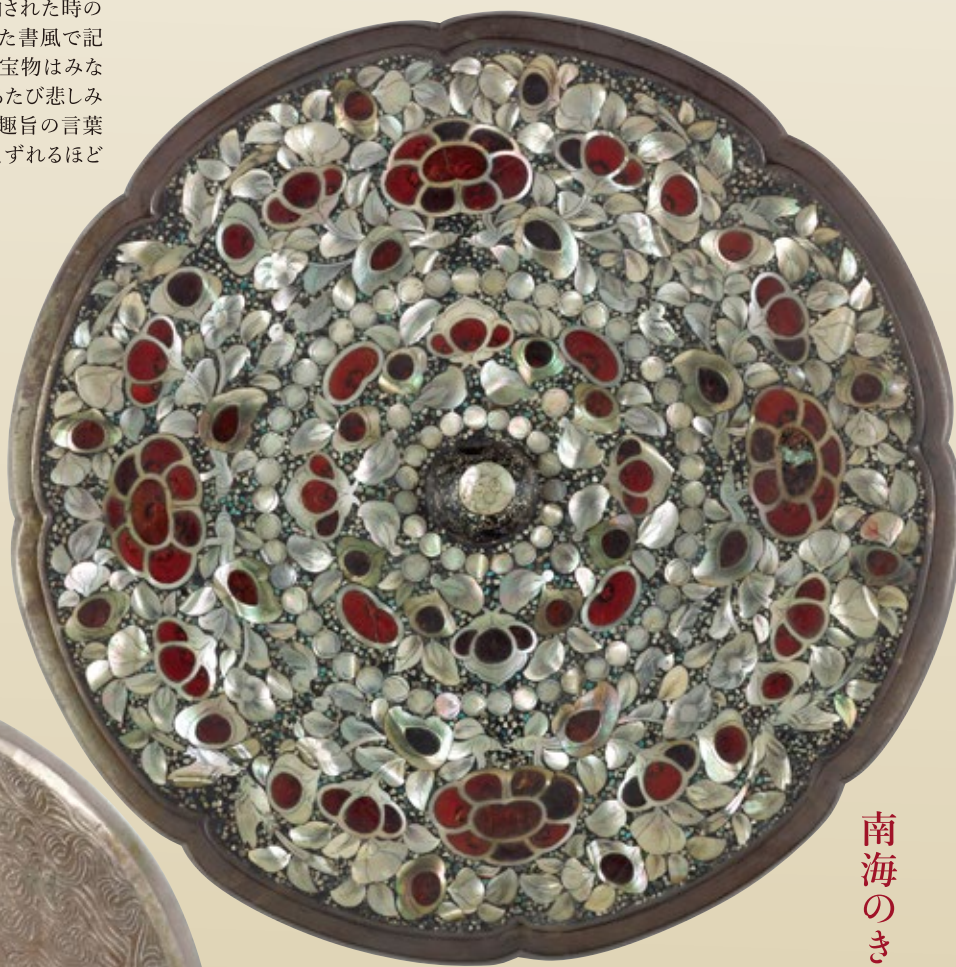
こっ か ちん ぼう ちよう
国家珍宝帳(部分) 奈良時代・天平勝宝8歳(756) 正倉院宝物【前期展示】

聖武天皇の御遺愛品をはじめとする宝物が東大寺大仏に献納された時の目録。白麻紙18枚を貼り継いだ紙に墨色も鮮やかに堂々とした書風で記され、全体に「天皇御璽」の印が捺されています。巻末にある「宝物はみな聖武天皇の御遺愛品などです。昔のことを思い出し、目に触れるたび悲しんでくずれそうになります。謹んで盧遮那仏に献納します」という趣旨の言葉からは、宝物を見るたびに亡き聖武天皇との日々を思い、身がくずれるほど嘆き悲しんだ、光明皇后の深い愛情が伝わります。

国宝 海磯鏡

唐または奈良時代・8世紀
東京国立博物館(法隆寺献納宝物)【通期展示】

聖徳太子の命日にあたる2月22日を期して、天平8年(736)に光明皇后が法隆寺の「丈六」仏に捧げられた鏡。太子に等しい仏として信仰された金堂の釈迦三尊像に奉納されたと考えられます。鏡の背面には四方に山が表され、その周りには波の文様で埋め尽くされています。「海磯鏡」と称されるものの、仙人の姿とともにオシドリも見えるため、川や湖にまつわる神仙説話を表わしたものと考えられます。



南海のきらめきをちりばめた鏡

平螺鈿背八角鏡

唐時代・8世紀 正倉院宝物【後期展示】

『国家珍宝帳』に記された20面の鏡の一つ。銅で作られた花のような膨らみを持つ鏡で、背面に装飾を施した宝飾鏡の代表作です。琥珀と螺鈿(ヤコウガイの真珠層)による宝相華と呼ばれる天上世界の空想の花を背面いっぱい詰め込み、その間にはトルコ石の細片をはめ込んでいます。素材の持つ美しさを存分に活かした、ため息の出るような華麗さにご注目ください。



2章

華麗なる染織美術

正倉院の染織品は、法隆寺献納宝物の作品とともに世界最古の伝世品として知られています。東大寺大仏の開眼会や聖武天皇の一周忌法要においては、大量の幡や天蓋、褥などが必要とされ、それらは儀式の後に東大寺へ納められ、現在は正倉院宝物として伝来しています。この章では、正倉院を代表する作品が一堂に会します。天平文化を彩った華麗なる染織美術の世界をご覧ください。

色鮮やかなシンメトリの楽園



こんきょうけちあしぎぬのきじよく
紺夾纈絶几褥

奈良時代・8世紀 正倉院宝物【後期展示】

仏に供物を捧げる時、机の上に敷かれた作品です。夾纈とは2枚の木の板に文様を対称に刻み、これに布帛を挟んで強くしめ、防染する技法のこと。大きく枝葉を広げた果樹の下には蓮花座に乗った水鳥が鮮やかな色彩で左右対称に表されています。正倉院の夾纈を代表する作品の一つ。



すみえのぶつぞう
墨画仏像

奈良時代・8世紀 正倉院宝物【前期展示】

沸き立つ雲に乗り、大きく大衣を翻した菩薩。麻布にたっぷりと墨を含ませた筆で描かれています。菩薩の厚い唇やよく張った肩、大きな手の表現は肉感的です。中国盛唐時代の影響がうかがわれる奈良時代らしい大らかな表現が魅力的な作品です。

天平の天空を翔るみほとけ

3章 名香の世界

仏教の儀礼においては、貴重な香を焚いて仏に供養を行います。東大寺の大仏開眼会に代表される儀礼の場は、ふくよかな香りに満たされていたことでしょう。この章では正倉院を代表する香木である黄熟香を中心として、法隆寺献納宝物として伝来する沈水香などの香木、火舎や薫炉といった香を焚くために用いる道具をご紹介します。

おうじゅうこうらんじゃたい 黄熟香(蘭奢待)

東南アジア 正倉院宝物【通期展示】

「蘭奢待」の名で知られる天下の名香。この雅名の中には「東」「大」「寺」の三文字が組み込まれています。足利義政や織田信長らがこの香木を得たいと熱望し、一部を切り取った出来事は有名です。近代には明治天皇も行幸した折に切り取られています。ジンチョウゲ科のジンコウ属植物に樹脂が沈着することで出来た沈香であり、いまだに高い香りを放っています。



天下人が切望した香り



聖武天皇御愛用。異国趣味な水差し



漆胡瓶

唐または奈良時代・8世紀 正倉院宝物【後期展示】

『国家珍宝帳』に記載される聖武天皇御遺愛の水瓶。下膨れの胴に把手の付いた形は胡瓶と呼ばれ、ササン朝ペルシアに由来します。蓋の形は鳥の頭のように、銀の鎖により把手とつながっています。黒い漆の表面には銀の薄板をはめ込む装飾が施され、草花の生い茂る野に鹿が駆け、鳥が舞う様子が華やかに表わされています。

国宝 竜首水瓶

飛鳥時代・7世紀
東京国立博物館（法隆寺献納宝物）【後期展示】

銅に金銀の鍍金を施した華麗な水瓶。西アジア由来の器形のみならず、胴体に刻まれたギリシア・ローマ神話由来の有翼馬や、注ぎ口の龍など、シルクロードを経由してわが国に伝えられた諸地域の造形表現が一作品に結集しています。法隆寺献納宝物を代表する古代金工美術の傑作であり、壮大な古代の国際交流を今に伝えています。

紫檀木画槽琵琶

唐または奈良時代・8世紀 正倉院宝物【後期展示】

四絃琵琶は古代ペルシアに起源を持つ楽器。五絃琵琶と異なり、頸部が後ろへと直角に曲がるのが特徴です。本体は紫檀を削り抜いた槽に別材の腹板を貼り、背面には象牙や黄楊、錫などをはめ込む木画の技法によって華麗な装飾が施されています。撥が当たる部分には革を貼り、馬に乗って狩猟を行う人物や山中での酒宴の様子を極彩色で表わしています。

4章 正倉院の琵琶

正倉院は古代楽器の宝庫でもあります。すでに現地では失われてしまった古代中国や朝鮮半島の楽器を伝えている点は、世界の音楽史上にも特筆すべきものでしょう。なかでもとりわけ有名なのが華麗な装飾が施された琵琶です。本章では正倉院の古代楽器を代表する二つの琵琶を中心として、本年完了した模造事業の成果もご紹介いたします。天上世界の楽器ともいえるべき、究極の造形美をご堪能ください。

螺鈿紫檀五絃琵琶

唐時代・8世紀 正倉院宝物【前期展示】

古代インドに起源を持つ五絃琵琶。その唯一の作例として著名な本作は、紫檀を削り抜いた槽に別材の腹板をあて、全体に玳瑁（ウミガメの甲羅）と螺鈿で装飾を施しています。特に背面に表わされた宝相華文は圧巻です。撥を受ける部分にはラクダに乗って琵琶を演奏する人物が表され、シルクロードを通じて遠い異国の音楽が伝えられたことを象徴するかのようです。『国家珍宝帳』記載の品であり、古代東洋の工芸史上、最高の傑作と言うべき至宝です。

シルクロードの音色を運ぶ至高の美



工芸美の共演

わが国の7世紀美術を代表する法隆寺献納宝物と8世紀美術を代表する正倉院宝物。それぞれ聖徳太子と聖武天皇に由来する宝物には時間的な隔たりがあるものの、同じ用途のために製作された作品も含まれています。本章では主に二つの宝物を同時に展示することで、飛鳥時代から奈良時代にかけて、作品の形がどのように変わっていったのか、また美意識の特色について見ていきます。

酒宴で舞い踊る異国の王



重文 伎楽面 酔胡王

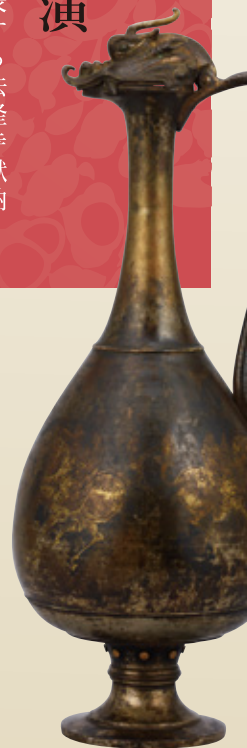
飛鳥時代・7世紀
東京国立博物館(法隆寺献納宝物)【前期展示】

聖徳太子ゆかりの法隆寺に伝来した伎楽面。西アジアの鼻が高い人物の相貌を誇張して表し、酔っぱらった赤ら顔をしています。大きく目を見開き、唇の厚い表情は威厳に満ち、本来は顎ヒゲとして、動物の毛が植え付けられていました。両側に耳隠し、正面に虎皮の飾りをともなった冠帽は丈が高く大ぶり、西域の古代服飾を今に伝えています。

伎楽面 酔胡王

奈良時代・宝亀9年(778)
正倉院宝物【前期展示】

伎楽は、中国南部(呉)に由来するセリフを伴わない音楽劇で、飛鳥時代に朝鮮半島の百済から伝えられ、仏教法会などで催されました。これは酔っぱらった胡の国(ペルシアをはじめとした西アジア)の王様が従者を従えて舞い踊る演目に用いられた酔胡王の伎楽面。正倉院に伝えられた数多い伎楽面の中でも白眉といえましょう。特に冠帽にある唐花の文様は、奈良時代らしい華やかさを示しています。

6章
宝物を守る

1260年以上の長きにわたり宝物を伝えてきた正倉院。漆芸品や染織品など、脆弱な素材で作られた作品が現代に伝えられているのは、決して偶然のなせるわざではありません。時の皇室による保護のもと、人から人へ守り伝えてきたことこそが、世界の文化史上にかけがえのない意義を持っています。本章では明治以降本格化した正倉院宝物の調査と修復作業に焦点をあて、あわせて帝室博物館時代以来の東京国立博物館と正倉院のつながりもご紹介いたします。

正倉院裂と聖語藏経巻の修理風景写真

大正4年(1915)頃 宮内庁正倉院事務所



江戸時代後期から行われた正倉院宝物の修理は、明治時代に入って本格化します。なかでも正倉院裂とよばれる染織品の数は膨大で、その修理は現在も継続して行われています。これは唐櫃から取り出した染織品を水で伸ばし、和紙で裏打ちをしている大正時代の修理の様子です。第6章ではこの時に修理された「古裂帖」も公開されます。

正倉院御物修理図

稲垣蘭圃筆 明治22年(1889) 東京国立博物館【通期展示】

宮内省図書寮が当時の赤坂離宮の地で行っていた正倉院宝物修理の様子を描いた作品。筆者の稲垣蘭圃は図書寮に勤めていた人物で、正倉院宝物の模造製作を行っていた稲生真履の求めに応じて描かれました。大らかな当時の修理の様子を伝えるものとして貴重です。



Special Exhibition
Celebrating the Enthronement
of His Majesty the Emperor

Shosoin: Essential Treasures of Ancient Japan
Passed Down by the Imperial Family

正倉院の世界

皇室がまもり伝えた美

開催概要

- 〔主催〕 東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
〔協賛〕 岩谷産業、大和ハウス工業、丸一鋼管
〔会期〕 2019年10月14日(月・祝)～11月24日(日)
前期／10月14日(月・祝)～11月4日(月・休) 後期／11月6日(水)～11月24日(日)
〔開館時間〕 午前9時30分～午後5時
※金曜・土曜、11月3日(日・祝)、4日(月・休)は午後9時まで ※入館は閉館の30分前まで
〔休館日〕 月曜日、11月5日(火) ※ただし10月14日(月・祝)と11月4日(月・休)は開館

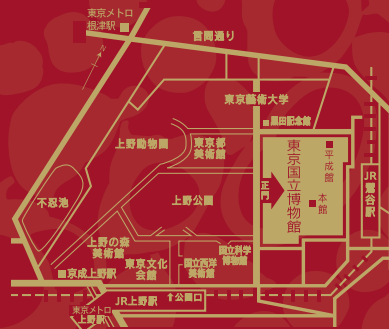
観覧料	当日券	前売券	団体券
一般	1,700円	1,500円	1,400円
大学生	1,100円	900円	800円
高校生	700円	500円	400円

※中学生以下無料。※団体は20名以上。※前売券は7月19日(金)から10月13日(日)までの間、東京国立博物館正門チケット売場(窓口、開館日のみ、閉館の30分前まで)、展覧会公式サイト、各種プレイガイドにて販売。※障がい者とその介護者1名は無料。入館の際に障がい者手帳等をご提示ください。

TNM 東京国立博物館 TOKYO NATIONAL MUSEUM(UENO PARK)

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 <https://www.tnm.jp/>

- 〔交通〕・JR上野駅公園口・鶯谷駅南口より徒歩10分
・東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅、
東京メトロ千代田線根津駅、
京成電鉄京成上野駅より徒歩15分



お問合せ | 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

展覧会公式サイト | <https://artexhibition.jp/shosoin-tokyo2019/>

〔報道関係お問合せ〕

御即位記念特別展「正倉院の世界―皇室がまもり伝えた美―」
広報事務局(ユース・プランニング センター内)

〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 3階
TEL 03-3406-3419 FAX 03-3499-0958 shosoin-tokyo2019@ypcpr.com

今秋、同時期開催!! 御即位記念 第71回正倉院展

〔会期〕2019年10月26日(土)～11月14日(木) 〔会場〕奈良国立博物館